

郷土資料

あれこれ

82

【問合せ】社会教育課

郷土史編さん係

☎773-2197

今回は、南魚沼市役所南分館と児童公園の間にある「顕彰碑」と刻まれた石碑を紹介します。

昭和48年6月の六日町定例議会で、六日町土地開発条例、六日町使用料条例、六日町名誉町民条例、六日町表彰条例が制定されました。

名誉町民条例は、「社会文化の興隆や町の発展に功績があったものの功績と荣誉をたたえ、町民の社会文化の興隆に資し、町の功労者として、町民が郷土の誇りとし、深く尊敬する者に六日町名誉町民の称号を贈る」としたものです。この条例の制定により、同年9月の六日町定例議会で、今成幸一、雲尾東岳の両氏が名誉町民に選ばれ、同年9月25日に「名誉町民」の称号が贈られました。

今成幸一氏は、明治14年、東泉田生まれ。裁判所書記、「越後新報」専務取締役、長岡市書記および収入役を歴任。昭和18年11月18日から3年間は六日町長、昭和29年7月から約1年半を六日町助役（このときの町長は岩野良平氏）、昭和32年から

8年間は六日町議会議員を務められました。遅れている山間地の政治の向上を目的にした南魚沼郡町村長会の創設、家庭救済の郡社会福祉協議会の創設など地域の発展に尽力されました。昭和20年には日本医療団を誘致し、六日町診療所（後の同団六日町病院）を創設しました。

雲尾東岳氏は、明治26年、上原生まれ。大正4年から昭和6年まで小学校訓導、校長を務めました。昭和11年から約10年間は六日町議会議員、昭和22年4月から2年間は六日町長を務められました。町長在任中の昭和24年には、解散し県に移管された日本医療団六日町病院を県立病院として、六日町に存続させるために力を注がれました。その後、新潟県議員を4期16年間務め、地域の政治、経済、文化の発展に尽力されました。

岩野良平氏は、明治39年、六日町生まれ。戦前、青年団活動、農民運動に尽力されました。戦後、六日町議会議員、昭和31年から6年余りは町長を務めました。在任中は、ガス掘削、水道整備、温泉などによる観光開発などに力を注がれました。

太平洋戦争の前後の最も困難な時期に協力しながら郷土の発展のために身を捧げて尽力した今成・岩野両氏の功績を顕彰するため、昭和60年11月10日に有志により「顕彰碑」

（石碑[㊟]）が建立されました。石碑の写真は、同年12月開催の除幕式で撮影されたものです。石碑の石材は、津南町見玉で採取されました。（写真1）

南魚沼市石碑[㊟]

【今成幸一 岩野良平 顕彰碑】

〔六日町〕



写真1 石材の下見



《参考資料》「広報むいかまち」、

「南魚沼郡誌」続編上巻

写真は個人所有

令和元年度

コミュニティ助成事業

【問合せ】企画政策課企画班

☎773-6672

コミュニティ助成事業は、一般財団法人自治総合センターが宝くじの社会貢献広報事業として、集会施設やコミュニティ活動用品の整備、安全な地域づくりなどに対して助成する事業です。

市では、これまで行政区や自主防災組織などで、区内の祭礼に必要な備品や、防災用品の整備などに助成を受け、地域のコミュニティ活動の充実・強化を図ってきました。

令和元年度は、北辰区が地域行事の継続的な実施を目的に、子ども神輿や曳車などを整備しました。

